

新春チャリティー講演会に参加して

女性部会長 平田昭子 (株)ダイコー商運



1月18日(木)アクトシティ浜松大ホールにて恒例の新春チャリティー講演会が「笑いと人生」と題しまして開催されました。毎年厳しい寒さの中行われます講演会ですが、今年は東の間の春を思わせるような暖かな日和となり、出足は好調1864名のご参加を頂き「満員御礼」となりました。

講師は笑点でおなじみの黄色い着物のほら…あの方!!そう、林家木久扇氏です。昭和12年生まれ、桂三木助師匠に弟子入りし落語家人生60年!また、笑点に出演して今年で51年目(2595回出場)となりました。まだ当時のテレビは白黒で、その後時代は変わりカラーになり、出演者の着物の色で画面を調整していたとか…今も着物の色は当時の名残として続いているそうです。また長い人生の中では喉頭がんに見舞われ、波乱の闘病生活も経験しました。

お話し半ばでは、木久扇師匠の8番弟子、林家木りんさんが登場し、小話となぞかけを披露して下さいました。

その中の一つに、「浜松法人会とかけて、新幹線と解く、その心は? のぞみ(望み)があってひかり(光)がある!」とても素晴らしいなぞかけを頂きました。林家木りんさんは元大関清国を父に持つ長身爽やかイケメンで、またファンが増えてしまったのではないのでしょうか。

その後、話はラーメンに移り「全国ラーメン党」を作るほどのラーメン好き。夢と野望に燃え中国進出も考えたのですが、高い壁に阻まれ…しかしその下りで念願の田中角栄元総理の目黒の自宅に伺う事が出来、その時のエピソードを声帯模写で再現され、場内はも〜!笑いの最高潮を迎えたのでした。

木久扇師匠のお人柄にふれ、最初から最後までいつものダジャレは封印、真正正銘の笑いが場内一杯に響いておりました。



中日新聞2月16日朝刊



当日はチャリティー募金や使用済み切手の回収等、大勢の皆様のご善意にふれ暖かな陽ざしの中、身も心も温まる一日となりました。

静岡新聞2月16日朝刊

